

大阪市長 挨拶文

大阪市長の松井一郎でございます。

UNEP(ユネップ)－IETC(アイ・イー・ティー・シー)設立 30 周年誠におめでとうございませう。30 周年記念イベントの開催にあたり、一言、ごあいさつを申し上げます。

UNEP－IETC は、1990 年に鶴見緑地で開催された「国際 花と緑の博覧会」のテーマ「自然と人間との共生」の精神を引き継ぐレガシーとして、大阪市が誘致し、1992 年に設立されました。

設立以来 30 年にわたり、廃棄物管理を主要な活動分野として、開発途上国を中心に、環境上 適正な技術の普及促進に取り組んでこられました。

また、アウトリーチ活動にも積極的に取り組まれており、市民が環境問題に関心をもち、正しく理解し意識を高めていくことに、大いに貢献いただいております。

インガー・アンダーセン事務局長をはじめ歴代の事務局長、並びにスタッフの皆様方のご努力に、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

私たちは、環境に大きな負荷をかけ続ける経済活動や、ライフスタイルを見直し、持続可能で真に豊かな社会を築いていかなければならない転換点に立っています。

例えば、身の回りにあふれているプラスチックは、私たちの快適な暮らしを支え、経済の発展にも貢献してきました。

しかし、一方で、廃棄されたプラスチックは自然に還りにくい性質があり、陸から海洋に流出するプラスチックが、水生(すいせい)生物(せいぶつ)や鳥などに深刻な被害をもたらすなど、深刻な環境問題を引き起こしています。

プラスチック汚染問題は国境を超える課題であり、世界全体で協調して対策に取り組んでいく必要がありますが、この問題に対し、適正な廃棄物管理を専門とする国連機関である UNEP－IETC は、大きな役割を果たせると期待しています。

2019 年に開催された G20 大阪サミットにおいては、2050 年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することをめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有されました。

大阪市におきましても、大阪府とともにその実行計画を策定し、プラスチックごみによる河川や海洋の汚染防止などに率先して取り組んでおります。

また、今後も国などとともに、地球環境センターを通じ、UNEP-IETC の活動を、しっかりサポートしてまいります。

最後になりますが、2025 年に開催される大阪・関西万博に、国際連合から参加表明をいただいておりますことに、万博開催地の市長として厚くお礼申し上げます。

UNEP 並びに UNEP-IETC の益々のご発展と、本日、ご臨席の皆様方の持続可能な社会の実現に向けた、ご活躍を祈念いたしまして、私からの、ごあいさつとさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

令和4年10月3日
大阪市長 松井 一郎